



# ZENFUREN

2013年10月4・5日

## 号外

全国国立大学附属学校連盟  
全国国立大学附属学校 PTA 連合会  
〒105-0001 港区虎ノ門 1-2-29  
虎ノ門産業ビル 8F  
TEL : 03-3591-2091  
FAX : 03-3591-2092

### 全附P連PTA研修会 第4回全国大会

## テーマ別分科会-3

第4回全国大会 2013 午後の分科会 3 では宇都宮大学教育学部保健体育専攻教授 加藤謙一先生 により 発育期におけるスポーツ実践の在り方 というテーマで講演が行われた。

## 教育におけるスポーツの役割



質疑応答で大いに盛り上がりました。



### 1 からだの成長と運動能力の発達

### 2 発育発達と個人差 ～小学生スプリンターの疾走能力の発達

### 3 子どもの心の様相と大人のかかわり方

この3つのテーマを中心に様々な観点から加藤先生の興味深い講演がスタート。

テーマ1 では男女を含めた子どもの成長過程の中で、正しい運動の仕方、とくに 筋肉、骨格、身長発育の個人の違いをスキヤモンの発育曲線等により分かり易く説明いただきました。

子どもの成長速度というのはそれぞれで大きく異なるので、型にはめた指導方法をおこなうことは避けるべきである事、運動レパートリーの拡大が必要な事等、これらの問題点を分かり易く説明していただきました。

テーマ2 では特別な能力をもったジュニアスプリンターと平均的な小・中学生を比較し、その運動能力の違いがどこにあるのかを加藤先生本人が調査したデータをもとに分析。

これに関しては早熟した体格や骨年齢の個人差がその能力に大きく影響する事がわかり、将来のトップアスリートの育成方法にヒ

ントを見出すことができる事に加え、個人差に応じた指導方法の違いを考慮しなければならない事をよく理解できる内容だった。

テーマ3 では「できた!」「やった!」といった成功体験が子どもの運動にたいする興味の高さに強く影響すること「運動有能感」について過去の様々な事例を使い、日常生活での大人の関わり方を深く考えさせる内容に参加者は大きくうなずいていた。

### 加藤先生の総括として

- 1 スポーツを受験勉強のように能力を評価する物差として利用することは危険であること。
- 2 目先の目標にとらわれて基本技術の習得をおろそかにしてはいけないこと。
- 3 運動を習い事のように義務感で行うと自主性を失い、長く継続をすることができなくなる可能性があること

特に栃木県教育委員会が行った小学生のスポーツ活動に関する調査による「スポーツを行っていない理由の一位である「やりたいスポーツがない」という結果に大きな疑問を感じた加藤先生は習い事としてスポーツをすると、子どもは義務と感じ、その結果 好奇心と興味を失う事になってしまう事を危惧していた。

最後の短い時間での参加者からの質疑応答は多数の挙手があり、そのなかで京都洛南高校の桐生祥秀選手の100mの9秒台の可能性についての話題にも触れ、会場は大いに盛り上がった。あっという間の2時間、盛大な拍手により分科会3が終了した。



北海道教育大学附属札幌中学校 PTA  
会長 関 一樹 取材